



# 札幌の夢をいっばいに載せて

## 第一回 定山溪鉄道

街並みや暮らしの変遷とともに  
大きな発展を遂げた昭和の札幌。  
その一場面に居合わせた方に、  
思い出の旅へと  
案内してもらいましょう。

今回のご案内役は……… 倉島 齊さん

### 庶民の夢をいっばいに載せて 奥座敷まで走り抜けた最新式電車

定山溪鉄道の電車営業廃止は昭和四十四年十月、もう三十三年も経って、定鉄の電車を覚えている市民も少なくなつた。

定山溪鉄道は、大正七年から昭和四十四年までの五十二年間、豊平駅（豊平三・九）から定山溪駅までの約二十八キロの沿線住民や、温泉への行楽客を運んだ鉄道である。当初は機関車に客車を牽かせていたが、昭和四年からは大型電車で代わつた。

私は七、八歳の頃、父の会社が定山溪で開いた社員家族観楓会に連れていってもらつた時、初めて定鉄の電車に乗つた。まばゆい車体、六十



定鉄が電化されたばかりの昭和4年の豊平駅。線路は平岸のリンゴ畑を抜け、現在地下鉄南北線の高架がある部分を経て、定山溪へと続いていた

キロの高速で飛び過ぎて行く風景、市営のチンチン電車しか知らない幼い私には、目を眩るばかりの五十分だった。そして定山溪に着くと、宿の船着場から数隻の屋形船に分乗して錦橋の舞鶴瀬まで下り、

岸辺の紅葉を眺めながらの観楓会……。今もその一日は目の底に刻み込まれている。しかし、その光り輝く電車も、戦争の激化とともに次第に老朽の気配を漂わせて、終戦後の窮乏期には、割れた車窓にベニヤを貼つた電車まで出現し、通学生や沿線住民、運び屋、闇屋、買い出し客などがすし詰めで乗っていた。それだけに、真駒内の米軍基地専用のピカピカ電車が、優り、駅舎に入れぬほどだった。先ダイヤで割り込んでくるたびに、改めて敗戦国民の悲哀を感じさせられたものだった。だが、二十年代後半から三十年代に入ると、定山溪鉄道は活気を取り戻し、温泉の好況や沿線の住宅化などで乗客数が急増した。大安吉日などが重なる時、豊平駅の待合室は、一般客に温泉への新婚旅行カップルと見送り客が加わ

廃止5年前の昭和39年、石山付近を走る。この先、石切山から定山溪まで13もの駅・停留所があったことをご存じだろうか



ン電車が緑滴る豊平川沿いをのんびりと走る……。高層ビルが林立する札幌の現景と、そんなのどかな田園風景とが札幌の中に共存していてもいいのではなからうか。

#### くらしま せいさん

昭和七年札幌市生まれ。作家。昭和四十五年「老父」で新潮新人賞受賞、「兄」で芥川賞候補、「ドラマ」で「ちりりん ちりりん」で五十一、五十二年文化庁芸術祭優秀賞。西区在住。